

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

| | | | | | |
|------|-------------------|-----|--------------|-----------|---|
| 法人名 | 社会福祉法人愛成会 | 代表者 | 理事長 佐々木 哲 | 法人・事業所の特徴 | 法人の「愛・行動・感謝」という基本理念に基づき、事業所として『私たちは、利用者様一人ひとりを【尊重】し、【自分らしさ】と【生きがい】を持って、安心した暮らしが継続できるよう支援します』の理念を掲げ、ご利用者様にとって安心と信頼を得られる福祉サービスの実践に努めます。 |
| 事業所名 | 小規模多機能ホーム 自由ヶ丘 | 管理者 | 齋藤 大輔 | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|----|
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| | 1人 | 人 | 3人 | 人 | 人 | 1人 | 人 | 3人 | 人 | 8人 |

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|-------------------------|--|---|--|--|
| A. 事業所自己評価の確認 | 引き続き、新型コロナウイルス感染対策、感染状況を踏まえた上で、地域との関わり、繋がりを意識した取組みを検討し実践していく。 | 新型コロナウイルスが5類に移行したものの完全に落ち着いたわけではなく、地域との関わりも積極的なものにはならなかった。 | ・地域住民の高齢化と、新型コロナウイルスの影響で地域の中でも取り組みやイベントが再開できないでいる。今後再開した際には事業所にも協力をお願いしたい。 | 地域において事業所の存在価値を高めるべく、地域に出向いての取組みを検討し実現する。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | 引き続き、新型コロナウイルス等の感染症対策と、快適で居心地の良い空間の両立を目指す。 | 1テーブルに利用者2人で座ってもらい、リクライニングチェアを数ヶ所に設置し、離れた場所にもくつろげる空間を設けることで利用者が常時同じ空間に密になることを避け、感染対策と居心地の両立することができた。 | ・空間を上手く活用し、利用者を分散することで密を避けていることがわかった。 ・結果的に居心地も向上していると思う。 | 引き続き、利用者一人一人がくつろげるような環境作り（交流状況を考慮した席決め含む）や、感染症予防のため密にならないような工夫をし、心地よく過ごせるように常に意識し対応する。 |
| C. 事業所と地域のかかわり | 定期的にパンフレットの内容を見直ししながら、地域の施設に設置を要請していく。また、インスタグラムで発信することで、様々な角度から事業内容に関して地域の理解を求めていく。 | パンフレットは新たな設置場所を増やすことができた。インスタグラムに関しては、数は少ないが反応の声も聞かれ効果を実感することができた。 | ・インスタグラムを始めたことで実際に事業所に出向かなくても、事業所の取り組みや活動状況を把握することができるようになったことは良いことだと思う。 ・時代に合わせた対応が必要なんだと思う。 | インスタグラムでの情報発信頻度を増やすことと、パンフレットの設置場所を増やすことで事業所の存在と機能、役割を継続的に周知し理解を求めていく。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | 利用者に地域の一員であることを実感していただくためにも、新型コロナウイルスの状況を見極めながら外へ出る機会、関わる機会を確保していく。 | 利用者の要望を確認し、新型コロナウイルス感染対策として個別に対応することで、外食の機会を確保することができた。また、少人数でドライブを実施することで、四季を楽しんでいただくことができた。 | 新型コロナウイルスの影響はもちろん、地域住民の高齢化や子どもの減少も相まって地域の行事自体も減少している。 | 支援や介護が必要になったからといって出かけることをあきらめるのではなく、感染対策を継続しながら、利用者の希望や思いを叶えられるようにする。 |
| E. 運営推進会議を活かした取組み | 地域の課題の抽出や地域と協働した取組み等を話し合う場として、運営推進会議を有効活用していく。 | 今年度、隣の自由ヶ丘町会で住民を対象とした、勉強会と介護相談会を「認知症を学ぶ会」と称して、他事業所と共催で開催することができた。参加人数は少なかつたものの、いざという時に頼っていただける存在であることをPRすることもできた。 | ・地域の心配な方について関わった実績があるのか？ ・「認知症を学ぶ会」を金属団地町会で開催することについては、話が具体的に変わった時点で改めて開催方法等について検討したい。 | 運営推進会議を有効活用し、金属団地町会での「認知症を学ぶ会」の開催を実現させる。 |

| | | | | |
|----------------------------|---|--|---|--|
| <p>F. 事業所の 防災・災害対策</p> | <p>地域の防災拠点としての機能を強化しつつ、地域の災害時にはソフト面、ハード面の両方で貢献できるように体制を整える。</p> | <p>今年度、ガス発電機を設置することができ、福祉避難所としての機能を強化することができた。備蓄に関しても消費期限を管理することで漏れなく更新することができている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ガス発電機を新たに設置したことで、災害時の電力確保の目途が立ったことは、利用者にとっても地域にとっても心強く思う。 ・金属団地町会の備蓄は町会長宅倉庫に保管している。 | <p>BCP（業務継続計画）を策定し、災害や新型コロナウイルス等の感染症が発生した際の職員個々の役割や動きを明確にすることで、業務を停滞させることのないようにする。</p> |
|----------------------------|---|--|---|--|